



Influenza at the human-animal interface

動物由来インフルエンザ情報

2014年12月4日現在の概要と評価

原文 : http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_04December2014.pdf?ua=1

1 鳥インフルエンザ A (H5N1) 型ウイルスによるヒトの感染症

2003 年から 2014 年 12 月 4 日までに、WHO に公式に報告のあったヒトの鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルス感染症の発生状況は以下のとおり。

発生国 : 16 カ国 (発生国は図 1 参照)、検査確定症例 : 676 例、死亡例 : 398 例

WHO のインフルエンザ情報が最終 2014 年 10 月 2 日に更新されてから、新たに 8 例のインフルエンザ A(H5N1)ウイルス感染の検査確定例 (5 例の死亡例を含む) の発生についてエジプトから WHO に報告あり。

すべての症例が今年 11 月に発生。6 症例がミニヤー (Menia) 県から、隣接したベニ・スエフ (Beni Sueff) 県およびアシュート (Assiut) 県から 1 症例ずつ報告。症例のうち、子供 2 人は生存し、成人 5 人が死亡、また女性 1 人が危篤状態 (詳細については表 1 参照)。30 才女性についての調査により 2 才の子供が浮上。両者とも裏庭飼育の病気に罹った家禽との接触歴あり。1 症例を除いて、発症する数日前に病気で死んだ家禽への暴露歴あり。鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルスが国内の家禽に循環していることが知られているので、このような散発症例や小規模のクラスター (集積) の確認は予想外のことでない。今回の症例数は、11 月にエジプトで報告された鳥インフルエンザ A (H5N1) によるヒトの検査確定症例では最も高い件数。患者由来のウイルス株と以前に報告された症例由来のウイルス株とを比較した予備の実験室内調査では、相違点は見つからず。ヒトと動物において、疫学的ウイルス学的調査が進行中。

○ 鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルスの公衆衛生上のリスク評価

インフルエンザウイルスは絶えず家禽を循環しており、とくに家庭で、感染した家禽や汚染環境に暴露したヒトにおいて、散発的感染や小規模な集積が起こる可能性あり。ヒトの感染はまれであり、現在、このインフルエンザ A (H5N1) ウイルスは簡単にはヒトへの伝播を起ささない。したがって、このウイルスが地域社会に拡散するリスクは低い状態。

表 1 鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルス感染によるヒトの検査確定症例 (2014 年 10 月 2 日~12 月 4 日)

発生国	発生地	年齢	性別	発症日	入院日	セクタビル 治療開始日	死亡日	接触歴
エジプト	Menia	3	男性	14年11月11日	11月12日	11月12日	NA	裏庭飼育の家禽
	Assiut	19	女性	14年11月7日	11月11日	11月11日	11月16日	裏庭飼育の家禽
	Menia	30	女性	14年11月11日			11月18日	裏庭飼育の家禽
	Menia	2	女性	14年11月12日		11月19日		裏庭飼育の家禽
	Menia	43	男性	14年11月20日	11月23日	11月23日	11月26日	調査中
	Menia	29	女性	14年11月22日	11月23日	11月24日	11月26日	裏庭飼育の家禽
	Beni Suef	35	女性	14年11月23日	11月25日	11月26日	11月27日	路地の行商
	Menia	24	女性	14年11月24日	11月28日	11月28日	NA	裏庭飼育の家禽

NA : 該当なし又は利用可能なデータなし

Number of Confirmed Human H5N1 Cases
by month of onset as of 2014-12-03

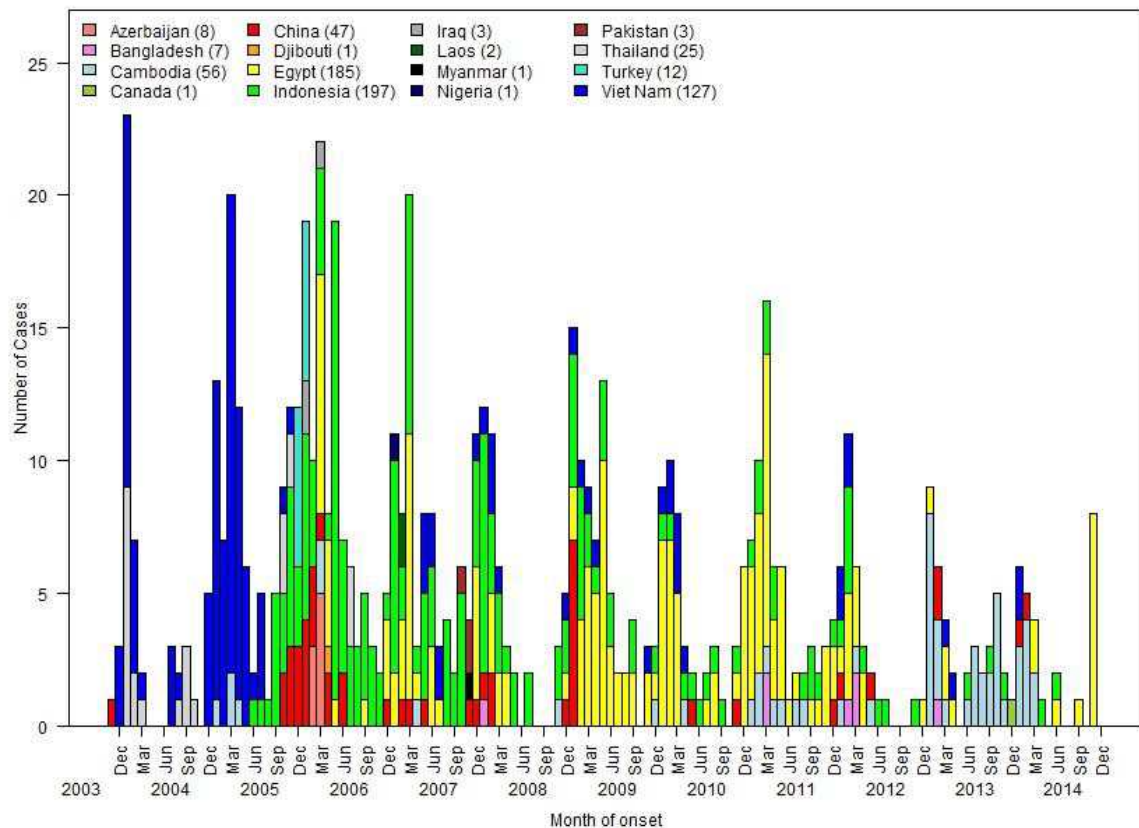


図1 国別・発症月別ヒトの鳥インフルエンザ A (H5N1) 症例の流行曲線

2 他の非季節性のインフルエンザウイルスによるヒトの感染

(1) インフルエンザA (H1N2) 再集合ウイルスによるヒトの感染

2013年以降、スウェーデンの養豚場で、再集合インフルエンザA (H1N2) ウイルスが確認。2014年4月に、ブタに循環しているインフルエンザウイルスとブタと接触のあるヒトについての研究の行程で、スウェーデンにおいて2人のブタ飼育者の鼻腔拭い液からこのウイルスが検出。ヒトの症例2人が働いていた農場のブタからウイルスが検出されたのちに、豚の飼育者からウイルスが検出されたことが明らか。両症例とも無症状で、他の飼育者や家族からは感染者は探知されず。これまでのウイルスの遺伝子解析により、ヘマグルチニン (HA) とすべての内部遺伝子を含むウイルスの7つの遺伝子が、A (H1N1) pdm09ウイルスと密接に関連していることが明らか。ノイラミニダーゼ (NA) は、ヒトインフルエンザA (H3N2) ウイルス由来のもの。この遺伝子は、2009年以降、スウェーデンのブタに循環。ウイルス学的特徴については調査中。

○ インフルエンザ A(H1N2) 再集合ウイルスに対する全般的な公衆衛生上のリスク評価

ブタからヒトへの伝播の結果ヒトで2症例が発生したが、それ以外のヒトからヒトへの伝播は確認されず。しかし、現在実施中の研究により、よく似た症例が確認される可能性あり。現在のウイルスについての理解とA (H1N1) pdm09 ウイルスに対するヒト社会において免疫が存在することを考慮すると、このインフルエンザA (H1N2) ウイルスについての公衆衛生上の脅威は低いと考えられる。

(2) 中国における鳥インフルエンザA (H7N9) ウイルスによるヒトの感染

WHOはこの事態を慎重に監視し、別途リスク評価を掲載しているので、更新情報は以下を参照してください。

http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/influenza_h7n9/Risk_Assessment/en/index.html

<http://www.who.int/csr/don/29-october-2014-avian-influenza/en/>

(3) インフルエンザA(H3N2)v ウイルスによるヒトの感染

最後のリスク評価以降、米国でインフルエンザA(H3N2)v ウイルスによる追加1例のヒトの感染症例を確認。その結果、2014年のヒトの感染例数は3例となる。発症する前の週におけるブタとの濃厚接触者は、今回も以前の症例でも報告あり。

○ インフルエンザA(H3N2)v ウイルスに対する全般的な公衆衛生上のリスク評価

米国のブタ集団にはウイルスが循環しているので、更なるヒト症例や小規模な集積は起こる可能性あり。過去には、症例は潜在的に感染したブタ集団とヒトが濃厚接触した農業フェアと関連。現在の地域社会レベルでの拡散やこのウイルスの公衆衛生上の脅威は低いと考えられる。

3 潜在的な公衆衛生上の脅威である鳥インフルエンザウイルスによる動物での集団発生

鳥類における地球規模での鳥インフルエンザの発生報告数は、年間のこの時期としては予想どおりの水準。

鳥インフルエンザA (H7N9) ウイルスの出現により、ヒトと動物の非季節性インフルエンザウイルスのためのサーベイランスが強化。インフルエンザA (H5N1) とA (H7N9) が今後数か月間、ヒトと動物の両方に検出され続けると予想。加えて、OIEからの報告によると、最近家禽から、インフルエンザA (H5N6) 、A (H5N8) 、A (H5N2) 、A (H5N3) のような種々のサブタイプが検出。

インフルエンザウイルスは常に進化する性質があるため、WHOは公衆衛生や動物衛生に影響する恐れのある循環しているインフルエンザウイルスと関連したウイルス学的、疫学的および臨床上の変化を探知するために、特に次の冬季にわたって、地球規模のサーベイランスの重要性を強調し続ける。非季節性のインフルエンザウイルスによるすべてのヒトの感染症（現在広範囲にヒト社会を循環していないもの）は、世界保健規則（2005）に則ってWHOに報告可能。動物やヒト由来のインフルエンザウイルスについては、適切な動物衛生やヒトの衛生にかかわるインフルエンザレファレンス検査施設で十分な解析を行うことが重要。

平成 26 年 12 月 10 日

滋賀県衛生科学センター

健康危機管理情報センター 仮訳